報道資料

彦根市
Hikone City

令和5年(2023年)2月3日

特別公開「雛と雛道具」を開催します

このたび、彦根城博物館において、みだしの展覧会を開催いたしますのでお知らせします。

記

1　展覧会名称

特別公開「雛と雛道具」

2　会　　期

令和5年(2023年)2月10日(金)～3月13日(月)　会期中無休

開館時間：午前8時30分～午後5時（入館は午後４時30分まで）

3　会　　場

彦根城博物館　展示室６

4　展示の趣旨

３月３日の上巳(じょうし)の節句に行われる雛祭りは、女児の健やかな成長を祈る行事です。元来、上巳に限らず、節句は季節の変り目にあたるため、病気などの災いが降りかかりやすい日と考えられてきました。そのため、節句には厄(やく)を払う祈りをし、厄を受ける身代わりとして人形(ひとがた)を作り、神に供えたり、厄払いとして川や海に流すということが行われました。後にこの人形は、飾り付けて楽しむものへと変化していきました。江戸時代に入ると、桃の節句に、人形とともに菱餅や菓子、白酒などを供えて賑やかな飾り付けをして祭を行うという、現代につながる習わしが定着しました。この人形は雛と呼ばれ、より華やかで精巧なものが作られるようになります。そして、実際の調度類を模したミニチュアの雛道具も作られ、雛と共に飾られるようになりました。

江戸時代の大名家の姫君の婚礼の際には、嫁入道具として、豪華な調度とともに雛と雛道具が誂(あつら)えられました。雛道具は、婚礼調度を模し、数十件にも及ぶ大揃えのものとするのが通例でした。井伊家13代直弼(なおすけ)の息女弥千代(やちよ)(1846～1927)が、安政(あんせい)５年(1858)に高松藩松平家世子頼聡(たかまつはんまつだいらけせいしよりとし)(1834～1903)に嫁いだ際にも、婚礼調度とともに雛道具が調えられました。弥千代の雛道具は、井伊家の家紋の橘(たちばな)と松竹梅の文様が金蒔絵(きんまきえ)であしらわ

れ、実物の調度さながらに精巧に作り込まれています。その数は85件にも及び、賑々しい婚礼仕度の様子を今に伝えてくれます。

本展では、弥千代の雛道具を中心に、地元の旧家に伝わる古今雛（こきんびな）や段飾り、御殿（ごてん）飾りなどを一挙に公開します。春を彩る華やかな雛飾りの数々をご堪能ください。

5　展 示 作 品

別添リストの13件

6　観　覧　料

一　　般　300円（270円）

小・中学生　150円（100円）　　（　）内は30名以上の団体割引料金

＊常設展「“ほんもの”との出会い」も併せてご覧いただけますが、期間中、館内工事のために一部展示室を休室しています。そのため、通常の観覧料より減額しています。ご注意ください。

7　関 連 事 業

スライドトーク

日　時：令和5年(2023年)2月11日(土・祝)
　　午後2時～（受付は午後1時30分～）　＊30分程度

会　場：彦根城博物館　講堂

定　員：50名（当日先着順）

参加費：無料　＊展示室への入室には、別途、観覧料が必要です。

講　師：奥田 晶子（当館学芸員）

問い合わせ先
彦根市教育委員会事務局
彦根城博物館 学芸史料課
担当：奥　田　晶　子
（電話　0749-22-6100）

特別公開「雛と雛道具」展示作品リスト

NO.	名称	数量	年代	所蔵
1	やちよ　ひなどうぐ 弥千代の雛道具	1揃 （85件）	江戸時代後期	本館蔵（井伊家伝来資料）
2	まちよ　あまがつ 真千代の天児	1躯	江戸時代後期	本館蔵（井伊家伝来資料）
3	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵（青柳和子氏寄贈）
4	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	明治33年(1900年)	本館蔵（山本高嗣氏寄贈）
5	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	大正7年(1918年)	本館蔵（尾賀信子氏寄贈）
6	ひなだんかざ 雛段飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵（加納基弘氏寄贈）
7	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵
8	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵（森嶋美代子氏寄贈）
9	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵（藤野金七・林弥家伝来資料）
10	こきんびな（つけたり ひなどうぐ） 古今雛（附　雛道具）	1揃	昭和6年(1931年)	本館蔵（山岡勢津子氏寄贈）
11	ごしょにんぎょう 御所人形	1対	江戸時代後期	本館蔵（井伊家伝来資料）
12	まめにんぎょう　だいどころどうぐ 豆人形・台所道具	1揃	大正～昭和時代	本館蔵（山田米子氏寄贈）
13	たちびなず　いわやさざなみひつ 立雛図　巌谷小波筆	1幅	明治～昭和時代	本館蔵（日下部暘氏寄贈）

写　真　解　説

1　弥千代の雛道具　一揃（写真はその一部）

（作品リストNO.1）

江戸時代後期

本館蔵（井伊家伝来資料）

貝桶や三棚、挟箱など85件からなるミニチュアの調度類。弥千代の婚礼に際し、婚礼調度を模して誂えられました。井伊家の家紋である橘紋と共に、根引きの小松、笹竹、梅枝の模様が描かれ、全体に統一感ある意匠となっています。

弥千代の雛道具のうち 碁盤・双六盤

碁盤　　高7.2cm

双六盤　高6.5cm

碁盤

日本で古くから楽しまれてきた遊びである碁と将棋で用いる盤。碁は、白黒のコマを交互に並べ、地を広く占めた方が勝ちとなる遊びで、双六は、２個の賽を振り、出た目の数だけ白黒のコマを進め、早く相手の陣に入った方が勝ちとなる遊びです。

碁盤・双六盤は将棋盤と揃いで「三面」と呼ばれます。三面は、女性の教養を育むにふさわしい遊技具とされ、江戸時代には、婚礼調度の定番となりました。弥千代の雛道具においても、当初は三面揃であったと伝わります。

双六盤

2　真千代の天児　一躯　（作品リストNO.2）

高 44.1cm

江戸時代後期

本館蔵（井伊家伝来資料）

井伊家13代直弼の４女真千代（1854～1904）の誕生に際して誂えられた天児。

天児は、子どもに降りかかる災いや穢れを代わりに負わせる人形です。子どもの誕生とともに準備され、新しい着物は、いったん天児に着せて厄を払ってから、子どもに着せることも行われました。女児の場合は、成長した後も、雛祭で飾りつけたり、輿入れの際に持参することもありました。

3　雛御殿飾り　一揃（作品リストNO.4）

高 64.5cm

明治33年(1900年)

本館蔵（山本高嗣氏寄贈）

紫宸殿を模した御殿の中に男雛と女雛、官女を、御殿の周りには随身や仕丁などを配した雛御殿飾りの一揃です。雛御殿飾りは、江戸時代の末頃から盛んに行われるようになり、明治時代には広く普及しました。

この御殿飾りは、明治33年(1900年)3月に生まれた千代という女性の初節句のために、京都で製作されたものです。御殿は大振りで、飾り金具をあしらった蔀戸や房飾りの付いた御簾など、細部まで丁寧に作り込まれています。明治期の雛飾りを今に伝える貴重な優品です。

4　古今雛　一対　（作品リストNO.7）

男雛 高 44.5cm

女雛 高 43.4cm

江戸時代末期

本館蔵

男雛と女雛の一対。公家風の衣装をまとう内裏雛の一種で、江戸時代明和年間（1764～1772)に江戸の人形師原舟月が創始した古今雛と呼ばれるものです。造作は、細部までよく整えられており、目元や口元、髪の生際などを描き出す柔らかな筆遣いは、制作者の確かな技量を感じさせます。